

入笠山

2014年6月1日 リーダー:佐藤 きよみ



↑ 山頂にて残雪の残る山々を背景に集合

↑ 入笠山の山頂にて

6月山行 入笠山(1955メートル) 担当リーダー:佐藤 きよみ

31人乗りのバスに29名が乗車して一路長野県富士見市に向かいました。抜けるような青空で車窓からの眺めもすばらしかった。予定通り9時半にゴンドラ下に到着。ゴンドラで快適な空中遊覧を楽しみ、そこからは4人がのんびり散策、25人は湿原を通り入笠山を目指しました。1955メートルの頂上は360度の絶景!アルプスの山々がはっきり見えました。ここで恒例の写真撮影。カメラマンが多くどこを見ればよいか分からず写っている目線はけっこうバラバラ。昼食は下山途中の木立の中でとりました。戻ってきた湿原で悠々組の4人と合流してくだりのゴンドラに。ここで最高のおもてなしがありました。なんと、冷たいおしぼりが配られたのです。これは大感激。又、インフォメーションセンターでは地元のトマトジュースが差し入れされました。お目当てのすずらんには少々時期早く少ししか会えませんでした。他の花も見られてまあまあ一日だったかなあ!帰路、立ち寄り温泉で汗を流し春日部へ。

しかし、道路渋滞もあり、温泉で時間をとり過ぎたこともあり帰宅が遅くなってしまいドライバーさんには大変、大変ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。皆様もお疲れ様でした。



↑ 登りの休憩

↑ スズランの群落



↑ ゴンドラで登山口まで一気に



↑ 最高の快晴で眺望は抜群



6月山行「入笠山」に参加して／戸邊茂雄

6月1日(日)、入笠山(にゅうかさやま)の山行に参加しました。入笠山は、長野県の中西部にある赤石山脈(南アルプス)北端の標高1,955mの山です。山頂近くまでゴンドラリフトや車道が通じているため、比較的容易に登頂することができます。山頂の地面は小石で、木々はなく天候次第ではほぼ360度の大展望が広がり、南・中央アルプス・八ヶ岳はもとより富士山や、遠くは北アルプスなども望めます。また、周辺には大阿原湿原や入笠湿原などがあり、これらの湿原に自生する植物を楽しむこともできます。「スズラン山」とも呼ばれる入笠湿原一帯は、80万株のスズランの群生が有名ですが、その他にもさまざまな高山植物が見られます。また、「蝶の入笠」と呼ばれ、多くの種類の蝶が生息していることでも有名です。

今回の参加者は29名、ドライバーは舘山さんです。朝5:45にせんげん台、6:00に春日部で参加者を乗せ出発しました。天候は晴れ、それもかなりの暑さになるとの予報です。車は順調に走り、6:53に桶川北本ICから高速に入り、7:05に鶴ヶ島JCTから中央高速へと進み、7:15に狭山PAでトイレ休憩をして、7:45に八王子JCT、8:40に双葉JCTを通過、8:58に八ヶ岳PAで2度目のトイレ休憩をして9:20に諏訪南ICから高速を降りました。そこから一般道を通り9:30に富士見パノマリゾート駐車場に到着しました。今日はマウンテンバイクのレースが開催されているという事で、駐車場はその人たちの車で一杯でした。バスから降りて登山支度を整えてゴンドラリフト駅へ向かいましたが、丁度マウンテンバイクのレースが行われておりました。9:55にゴンドラリフトに乗り10:10にゴンドラ駅頂上に到着です。ゴンドラの距離は長く、乗りごたえがありました。そしてゴンドラからは富士山や八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳などの山々も良く見えました。

10:20に入笠山へのトレッキング開始です。まずは入笠湿原に向かいます。森の中を少し歩くと湿原に出ました。湿原の中は木道です。沢山の花に出会えると思っていたのですが、少し時期が早かったようです。咲いている花は、ほんのわずかでした。湿原を抜けて再び森の中を進み入笠山に進みますが、ここからようやく傾斜のある山道となりました。しかし、距離は短く11:15に入笠山頂上

↓山頂の戸邊さん



に到着です。頂上は見晴らしがよく、360度のパノラマが楽しめましたが、木が無いので木陰がありません。景色を堪能し、写真を撮った後は、少し下った森の中の木陰で11:35~12:10まで昼食タイムとなりました。下りは上りと別のルートを通してアスファルト道を歩いて下りました。このルートは八ヶ岳が良く見えるルートでした。そして、来た時と同じ入笠湿原を通り、13:30にゴンドラリフトに乗り、13:45にゴンドラリフトを下りました。ゴンドラリフトではおしぼりのサービスがあり、嬉しかったです。

14:00にバスに乗り、温泉に向かいました。行き先は、道の駅「信州蔦木宿」の天然温泉「つたの湯」です。14:15に到着して、16:00まで温泉とビールでくつろぎました。

後は帰るだけですが、いつもの様にコンビニに立ち寄り、アルコールを仕入れて16:28に小淵沢ICから高速に乗りました。朝の高速は順調でしたが、帰りはその様に行きません。小仏トンネル辺りでかなりの渋滞となり、20:15に狭山PAでトイレ休憩をし、20:28鶴ヶ島JCTを通過して、20:38に桶川北本ICから高速を降り、21:30に春日部、21:50にせんげん台へと帰ってきました。そして、せんげん台組はいつもの中華食堂でいつものように反省会を行って23:00帰宅となりました。

今回の山行は、花と蝶に期待を寄せていたのですが、残念ながらどちらも期待外れになってしまいました。それでもスズラン、ツバメオモト、シロバナエンレイソウ、カタクリ、クリンソウなどの花を見ることができました。蝶もアサギマダラを見かけました。鳥はウグイス、カッコウ、シジュウカラの鳴き声が聞けました。そして、景色は十分堪能できました。

参加者が多い中、リーダーを務めてくださった佐藤さん、そつなく会計係をしてくださった村田ご夫妻はじめ皆様ありがとうございました。



↑カタクリの花



↑スズランの群生の中の一株



↑らくらくコースのメンバー



↑入笠湿原をすすむ



↑山頂にて 向かって右から卯田さん、新入会の足立さん、吉田さん



↑もうすぐ山頂。



↑湿原を散策中のらくらくコースメンバー



↑アツモリソウ



↑標識におどける豊島さんと清水さん

7月山行早池峰山 山行案内

↓ 10年前の早池峰山山行

早池峰山のカンラン岩(蛇紋岩)は、12億年前、太平洋ができるときに作られたものといわれ、日本列島が誕生する前にできた最初の島です。

早池峰の岩盤に含まれた化石類のサンゴは、今から4億3千万年から3億9千5百万年と、気が遠くなるようなこれらの岩石は、現在日本で確認されている最も古い地層です。

そのために、世界ジオパークの候補地として脚光をあびていますが、森林限界がはっきりと区別ができる山としてもその価値は評価され、登山、植物、地質学者などに愛される、日本百名山のひとつです。

しかし、なんといってもハヤチネウスユキ草をはじめとした早池峰の固有種(早池峰にだけしか植生しないもの)や珍稀種(非常に珍しいもの)などの高山植物群です。

登山日の7月中旬は早池峰が最も美しく輝くとき。ハヤチネウスユキ草を始めとした、高山植物600種もの花々が咲き誇り、花好き人間を魅了すること間違いありません。

早池峰の高山植物は国の特別天然記念物に指定されていますが、それらが相まって、早池峰山は世界遺産候補16地域のひとつとして選定されています。



【日時】7月19・20・21日

【集合】せんげん台 6時00分 春日部 6時15分

【持ち物】いつもの登山準備、毛布もしくは寝袋、入浴セット

【行程】19日：岩手県花巻市大迫町「ガラス工房・昼食→スティール・入浴→スーパーで夕食買い物→宿舎(夕食)

20日：宿舎4時30分発→岳登山口5時10分着(シャトルバス乗車)登山後、岳登山口11時30分頃着

岳11時42分発→ワインハウス湖畔(昼食)スティール・入浴→スーパー買い物→大償神社・神楽見物(夕食)→宿舎

【観光組】宿舎8時発→盛岡ミステリーツアー→スティール入浴→大償神社→神楽鑑賞(夕食)

21日：宿舎7時30分発→ガラス工房にて朝食→「ワインシャトー」→春日部18時頃着

【申込み】現在4名の余裕があります。

【リーダー】伊藤松雄・松島 毅(副リーダー)

『早池峰山&神楽 ツアー』参加者の皆様へ

7月19日～21日のツアーに関しましてご案内いたします。

今回のツアーは早池峰山登山以外にこの地域の風土、歴史および文化を現地の方々との交流をとおして感じていただくことが出来るプログラムを用意しました。

今回のツアー担当者(4名)で3回の準備会議を開催し、伊藤会長を現地との窓口として手配、調整をお願いしましたが、現地とは「フェイス to フェイス」での調整とはいきませんので詳細部分ではツアー当日に未確定なことが発生するかもしれませんがご理解ください。

ツアー参加会費につきましては、当初のエントリー人数から数名のキャンセルが発生しましたので当初想定金額からは増加し、**一人あたり¥25,500**とさせていただきます。**今後のキャンセルフィーは¥10,000**になりますが、この金額ではキャンセルが発生すると参加者一人あたりの負担金額が大きく増加しますのでご配慮をお願いします。

ツアーでの食事につきましては参加会費に含まれる食事は…

19日の昼食(ガラス工房のレストラン)および20日の地元の方々との懇親会での夕食(お蕎麦)の2回となります。

それ以外の食事は各自払いとなりますが、20日朝食おにぎりセット(@¥500)、21日朝食@¥800(ガラス工房にて和朝食)はご希望により手配します。

20日の夜は現地の方々の歓迎や差し入れもあるとの情報もあります。また神楽衆と一緒に懇親会ができるのはめったにないとのことです。楽しい懇親会にしましょう!

なお、20日は懇親会会場と宿舎が離れていますが、バスのドライバーに待機してもらうことは出来ませんので、懇親会会場から宿舎まではタクシーを手配するか、徒歩(約20分)になります。ご承知ください。

2014年7月4日
会計担当 品川